

石垣市学校施設等長寿命化計画の見直し（素案）に対するご意見の内容及び市の考え方

No.	ご意見等の内容（原文のまま）	市の考え方
1	<p>北部地域に住む未就学児の保護者として、本計画について意見を述べます。私は北部の暮らしに魅力を感じており、できる限りこの地域で子育てを続けたいと考えています。しかし現状では、子どもの成長、とりわけ小学校進学を見据えた段階で、教育環境を理由に地域外へ引っ越さざるを得ない家庭が多いのも事実だと思います。</p> <p>5歳児の保護者として、同級生がゼロ、あるいは一人という環境の学校に子どもを通わせたいとは思えません。学校は学力以前に、友だちとの関係の中で協力や衝突、調整を経験し、社会性を身につけていく最初のものであり、年代別の集団が成立しにくい状態が長く続くと、その機会が不足します。全校児童が10人以下の学校を10年以上維持している状況があることを考えると、子どもの教育環境として望ましい姿なのか、改めて問い直す必要があると感じます。</p> <p>そのため北部地域の小規模校については、現状のまま個別に維持し続けるのではなく、統廃合を進めるべきだと考えます。ただし財政負担軽減だけを主目的とした統廃合ではなく、子どもにとってより良い教育環境を実現するための「前向きな再編」であるべきです。複数の小規模校を、特色ある一つの学校に集約し、そこで先進的な教育を実装することによって、北部に“住み続けられる理由”が生まれると思います。通学距離が伸びる課題についても、スクールバスの運用を前提に設計すれば、現実的に解決可能です。子どもたちの通学の安全と負担が確保されるなら、より多くの仲間と学び、質の高い教育を受けられる環境を優先すべきです。</p> <p>「先進的で特徴ある学校」が実際に移住・定住に影響している例が全国にある、という点です。たとえば長野県佐久穂町の大日向小学校はイエナプラン教育を掲げ、在籍児童の多くが県外からの移住家庭であることが複数の取材・報告で示されています。開校当初は町内から通う子どもが少数だった一方、のちに児童数が増え、移住を伴う入学希望が集まったと報じられています。また、学校が地域に与えた変化として、子どもの声が戻り、移住した保護者が商店街で店を始めるなど、町に活気が生まれたという証言も紹介されています。対話や協働、異年齢集団などを軸にした教育の中身が、家族単位の移住を引き起こす動機になっている点です。こうした教育が「私立だから可能」という話にとどまらないことも確認できます。公立の現場でもイエナプラン教育の考え方を取り入れた実践が進んでおり、東洋経済は「公立初」のイエナプラン実践として、福山市立常石小での取り組みを紹介しています。また、静岡県川根本町では、複数校を再編して2023年にスタートした公立校で、イエナプラン教育を実践する現場の取り組みが紹介されています。</p> <p>移住や定住の効果についても、教育の特色が“人の動き”に影響することを示しています。長野県伊那市では、公立の小規模校で特色ある教育を展開する伊那西小が「教育移住」で注目されている事例が報道されており、自治体資料でも「子育てや教育移住への関心が高く、特に伊那小・伊那西小への相談が多い」ことが示されています。これは、学校が単なる通学先ではなく、家族の居住地選択そのものに影響することを意味します。</p>	<p>貴重なご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>いただいたご意見は、学校のあり方や適正化に関することですので、それについての今後の参考にさせていただきます。</p>

No.	ご意見等の内容（原文のまま）	市の考え方
	<p>これらを踏まえ北部地域で必要なのは「小規模校をそのまま維持すること」ではなく、「統廃合によって教育資源を集約し、先進的で特徴ある学校をつくること」だと考えます。子どもたちの人数を一定規模に集めることで、同年代の集団が成立し、社会性を学ぶ環境が確保されます。同時に、教員配置や外部人材の活用、探究学習、対話を中心とする学習設計などを組み合わせることで、分散している現状よりも高い教育の質を実現できるはずで、スクールバス運用を含む通学の仕組みを計画段階から織り込み、遠方の子どもが不利にならない設計を前提とすれば、子どもにとっても、地域にとっても合理的な再編になります。</p> <p>そして何より、北部に「この学校があるなら住み続けたい」「この学校があるなら北部に移り住みたい」と思える学校が実現すれば、現在のように“子どもの成長に合わせて引っ越ししかない”という流れを変えることができます。北部に住む地元家庭の流出を抑えるだけでなく、教育を理由とした移住という新しい流入も期待できます。全国の事例が示すように、教育の設計は地域の人口動態や活力に現実の影響を与え得ます。</p> <p>本計画が、単に施設を維持・整理する計画ではなく、北部地域において「子どもを育て続けられる未来」を取り戻す計画となることを強く望みます。全校児童10人以下の状態を長期に維持することの是非を正面から捉え、統廃合とスクールバス等による通学設計をセットで進めたうえで、イエナプラン等の先進的な教育実践を参考にした“特徴ある学校づくり”を本計画の方向性として明確に位置づけていただきたいと思います。</p>	